

令和7年度 第2回かながわコミュニティカレッジ運営委員会 会議録

○開催日時 令和7年11月19日（水）9時30分～11時30分

○開催場所 かながわコミュニティカレッジ講義室1（かながわ県民センター11階）

○出席者

伊藤 真木子（青山学院大学コミュニティ人間科学部 教授）

岡野 貴代 （（公財）さわやか福祉財団 共生社会推進リーダー）

加藤 直樹 （（一社）神奈川県専修学校各種学校協会 副会長）

齋木 真紀子 （（一社）神奈川県中小企業診断協会 理事）

坂田 美保子 （（特非）湘南 NPO サポートセンター理事長）

澤岡 詩野 （東海大学健康学部健康マネジメント学科 准教授）

西 あい （公募委員）

○議題

- 1 令和7年度かながわコミュニティカレッジ運営業務の中間報告について
- 2 令和8年度かながわコミュニティカレッジ運営業務委託仕様書について【非公開】
- 3 令和8年度かながわコミュニティカレッジ運営業務委託団体募集要項・審査基準及び配点について【非公開】

○議事内容

議題1「令和7年度かながわコミュニティカレッジ運営業務の中間報告について」

（受託事業者より資料1-1、1-2に基づき説明）

伊藤座長

丁寧な説明をありがとうございました。

議題1について質問や意見等ありましたらお願いします

加藤委員

本当にこれだけの講座を切り回すのは大変だと思います。ありがとうございます。おつかれさまです。

募集状況が良い講座、不人気と言っては失礼だが受講が少なかった講座とありますが、先ほどの資料1-2の2ページ目（3）令和6年度修了生アンケート調査をみますと、修了者総数532名とこれだけの修了者数がいって、アンケートの回答者111名、回答率20.9%です。これに関わるのが、参考資料1の2ページ目のイで、先ほど説明があった人気度が高い講座の修了数に対して回答者数がありますが、「01 発達障がい児地域支援コーディネーター養成講座（基礎編）」は28.0%、「04 傾聴講座（入門編）①」23.8%、「09 傾聴講座（入門編）②」

19.0%、「18 大人の引きこもりと発達障がいを考える講座」17.4%、「21 傾聴講座（実践編）25.5%」というように、これだけ盛り上がっていて、修了者数に対して回答率が低いと感じます。なぜここにこだわるかと言いますと、受講された方のアンケートや意見は非常に貴重なものです。アンケートの回答率が少し低いように感じますが、これについてコメントがあればお聞かせいただければと思います。

受託事業者

実を言いますと、年々修了生アンケートの回答率が下がってきています。世の中の実勢なのか分からないのですが、私が知る限りでは、過去に回答率が 40%ということもありました。例年、5. 6. 7月の年間パンフレットが出る時期に修了生アンケートを送っていますが、回答率が年々減っているという理由は、憶測でしかなくこれといった明確な決定打というのはありません。3年前からは、1 講座受講の方に対しては、わざわざ紙で書いて投函する手間を省くためにもネットの Google フォームでアンケートを記載していただくよう回答方法も工夫していますが、昨年度に比べても回答率が下がってきています。ひとつの要因としては7. 8月に受講した方にアンケートを送るときは受講した時期が1年前の話になってしまうので、アンケートを取る時期をもう少し早くして年2回にすれば、回収率が上げられるのではないかと思います。または、講座の最後に修了生の方には修了生アンケートが1年後に届きますのでご回答くださいと呼びかけるなど工夫をしていかない限りは、回答率は上がっていかないと思っています。

回答者からはコメントをたくさん寄せていただいております、実際に活動に繋がっている方も多いと報告もあります。回答率が下がってしまっている傾向であり、修了生の今後の活動を知るという意味では、受講生が離れてしまうとコミュニティカレッジは受講後の活動については団体からの情報しか得られないため、回答率の充実をしていく必要があると思っています。講座ごとの回答率は受講人数が多いところでも2. 3割ですので、もう少し回答率を上げる工夫が必要かと思っています。

加藤委員

そうですね。回答数が少ないと偏った意見となってしまうこともあるので、恐縮ですが工夫をお願いします。

澤岡委員

丁寧なご説明をありがとうございました。

受講された方々が講座を実施されてるなど、理想的な動きがされているのだなと伺いました。

先ほどの報告で、受講者が少なかった講座もあったということですが、森ノオトさんから直接広報の話やノウハウを受けられるとは、青葉区では人気の団体さんなのでなかなか

いことです。おそらく団体さんの方で、まだ広報がしっかりできていなかったという認識ではないかと思っていますが、継続していくということが大事ですし、コミュニティカレッジのひとつの役割は人気がないからやめるというよりは、新たな課題を県域にどんどん新たに提示していく意味で、まだ目を向けていないテーマについて果敢にチャレンジすることがとても大切なことだと思って伺っていました。

質問ですが、先ほど報告いただいた資料1-1 2(4) その他の報告事項で、募集チラシがどのように配架されているかを調査していただいています。横浜市のあるケアプラザの生活支援コーディネーターの方から、施設にたくさんのチラシが届くと、誰に向けて情報を提供すればよいのか分からないこともあり、「こんな人におすすめ」、例えば「企業を退職した男性におすすめ」など、さっと見たときに分かったこれは配架しておすすめしようとか、今回は配架スペースがないから、などと判断ができるというお話を伺いました。資料やチラシを送付する際に、表書きに「こんな人におすすめ」、「こんな人にお伝えしたい」というのは、既にご案内はされているのでしょうか。

受託事業者

ありがとうございます。講座募集チラシ送る際は各10～15部ずつまとめてお送りしていて、送付時には鑑を付けていますが、特にこんな方におすすめということは取り上げてはいないです。ターゲットがわかりづらい講座に関しては、チラシの中にこんな方におすすめします、と入れることもあります。例えば「災害ボランティア入門講座」では、“災害ボランティア活動に関心がある方”、“地域の防災活動に関心がある方”、“災害に対する知識備えに関心がある方”のように、チラシの表面に入れることによって自分がその対象となるかどうか分かるよう記載しているチラシもありますが、全体的にみると少ないので、そのような工夫をして、施設の職員もチラシを見たときにこのような人たちが対象であれば、この方この団体に紹介しようと分かるような工夫を今後は考えていきたいと思っています。

澤岡委員

おそらく、お送りされているチラシは、配架だけではなくて配架されなくても施設でコーディネーターさんの目に留まると、自治会から担い手が欲しいと相談があったときに、例えばコミュニティカレッジにこういった講座があると、フェイストゥフェイスで紹介いただけるといったことになると思います。今おっしゃっていただいた「誰に向けて」ということも明確に伝わると、そのような意味でもチラシが活きるのではないかと思います。

岡野委員

丁寧なご説明ありがとうございます。参考資料1の修了生アンケートでは、意見のなかで「仕事をしているので土日やオンラインでの開催を希望する」、「午前中だけの開催だと仕

事と重なり参加できない」といった、働いている人への配慮を求める声や、「ボランティアでも交通費が出るのか知りたい」、「実際にボランティアとして地域活動に広げられる仕組みと繋げてほしい」など、実践に繋がるための工夫を求めている声が見られます。例えば、働いている方への配慮としてオンラインでの講座を実施していますが、さらに加えてオンライン講座のアーカイブ配信を行うとか、あるいは、会場の講義を撮影して申込者の方のみに YouTube で限定公開する等、新たな学びの機会を広げられる工夫も考えられるのではと思っています。

コミュニティカレッジは、実践に繋げるということがとても大切と思っていますので、実践に繋げる工夫として、「交通費はどうしているか」という、一見小さな情報かと思うようなことがとても大切な情報と思います。そのために、講座の企画の段階で企画者に対し、活動が始めるにあたり、どうやったら活動を始められるか、仲間集めはどうしているか、交通費はどうしているか、備品はどうやって工面しているか、保険の加入はしているか、など、色々実践にあたって必要な情報を講座の中で伝えるよう工夫してくださいといったことを、講座企画団体にあらかじめ伝えるのも必要と思いました。

受託事業者

ありがとうございます。まず、受講生は働いている方が非常に多いと感じていて、平日の受講者層が5・6年前と今は変わってきていると感じています。平日の昼間の講座の場合は、仕事を休んで来ているためなかなか毎週休みが取れないという声も聞いています。そのような意味では土曜日、日曜日、夜間の開催も必要かと思っています。

夜間に関しては、来年の1月からかながわ県民センターの閉館時間 22 時から 21 時に繰り上がりますので 18 時から講座をスタートしないといけないのですが、18 時からの開催はなかなか厳しい状況であり、工夫の余地はあると思います。オンラインだけでなくオンデマンド、アーカイブ配信、対面の講義を録画するなど。ただ、対面の項が録画は、カメラの機能や、音声をどうするかなど、まだ技術的なものを組み立てられてはいないので、本当に受講生にとって的確な映像が流せるかというところは、正直今の機材では自信がないのです。ZOOM は映像や音声が入るので、不具合なく提供できます。傾聴講座など人気講座について、落選した方からオンラインやアーカイブ等でみられないかという声もあります。ただ、ワークをたくさん実施する講座はなかなかオンラインに適していないということもあり、対面だからこそという講座もコミュニティカレッジは多いので、ひとつひとつ検討をしていきたいと思っています。

実践に繋げる、などより具体的な質問に対してどう答えていくかというところでは、講座実施団体にも、修了後に「このような活動があります」、「こういう活動するのにあたっては、このような準備が必要です」ということを伝えたり、説明したりしている講座もあります。個々の細かい活動については、県民センター9階にあるボランティア活動相談窓口や、近くの支援センターへの案内など、地域で活動していくのが基本的には大前提になるので、そこ

の地域で情報が得られるように、情報提供をしていきます。同じ目的・目標でひとつの講座に集まり受講生を繋がることと、その受講生が学んだことを地域で活かしていくところが、年々ボリュームゾーンとして大きくなっているのです、どのようにしたら受講生が活動に繋げていくことができるのか、ということを経後も継続的に考えていきたいと思っています。

伊藤座長

議題1の時間はあと3分ほどですので、回答は難しいと思いますがお伝えしたいことがあればどうぞ。

齋木委員

公式Instagramは6月から開設しているということですが、非常に効果は高いと思っています。投稿が大変かと思うのですが、有効だと思いますので引き続きご尽力いただければと思っています。神奈川県もYouTubeやInstagram等を強化されていると伺えますので、引き続き力を入れていただきたいです。

坂田委員

報告ありがとうございました。私自身も実際に地元で受講生や地域の方々に向けて様々な研修を企画、実践をしている中で、今日は共感をもって伺ったところです。人気のある高い講座については、シニア層がまだまだ地域で活躍できる方々がたくさんいらっしゃるのです、そのような方が前向きに受けてくださっているんだなと思いました。シニア層には機会を十分に受け取っていただけるチャンスがあると実感しました。

アンケートの回答数ですが、最近の傾向ですと、みなさん時間軸が非常に早いです。1日の時間早いですし1年が早く過ぎてしまうので、おそらく1年前のことを聞いても忘れてしまうのではないかと思います。若い人の時間の使い方もととても早いので、そういった部分では追いかけるのも難しいのではと推察します。事務局の皆さんは、非常に一生懸命やっただけなので、そこについては私たちがフォローしながらお手伝いできるよう、地元でも告知をしていけたらと感じているところです。

西委員

報告ありがとうございました。ご説明の中で、申込率が150%講座を超えているような講座はいくつかあるというお話をいただきました。何度か講座に足を運ぶ中で、毎年抽選に外れていて5年目でようやく受講ができたという方とお話をする機会があり、あまりにも気の毒に感じました。もし可能ならば、継続して落選してしまっている申込者に対して少し優先や配慮をする手立てを検討していただきたいと思っています。

伊藤座長

受託事業者は、委員の意見を踏まえて進めていただければと思います。よろしくお願いいたします。

以上